

「ねっトレ」(情報モラル教育 & メディアリテラシー推進)

教育DXによる学校教育のデジタル化では情報モラル教育(情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度を育成)とメディアリテラシー教育(必要な情報を効果的に探し出し、見つけた情報を適切に評価・活用できる能力を育成)を効果的に推進する必要がある。本校では年間をとおして「ねっトレ」(ネット関連トレーニング)として効果的に取り組むこととしている。

【「ねっトレ」の目標】

学習用端末等の機器の適切な使用や破損回避能力を身に付けながら、情報社会の中で、人権・知的財産権など自他の権利を尊重し、自分の行動に責任をもち、犯罪被害を含む危険回避能力を身に付け、健康との関わりにも留意して、適正に生きていくための情報活用能力を育成する。

4月

- ①【全学年】学習用端末使用上のルール(生徒会員規則及び学校ルール)の徹底
- ②【全学年】**端末破損防止指導の徹底**(事例も示しながら具体的に指導)
- ③【全学年】家庭内ルールを作成させ提出
- ④【1・3年】「こみゅトレ」実施で3年生が新入生にMeet等の使い方を指導
- ⑤【1年】「ネット情報の適切な評価・活用を考える」
- ⑥【1・2年】「ネット上の危険回避について考える」
- ⑦【全学年】Googleドライブのデータ管理等について指導

5月

- ①【全学年】**端末破損防止強化月間(各学年の学プロで対策を企画)**
- ②【1年】「オンライン会議の留意点を考える」
- ③【全学年】オンライン「こみゅトレ」実施:テーマ「中学生生活を充実させるために」

6月

- ①【全学年】「ネット上の人権尊重について考える」
- ②【全学年】クロームブック活用アンケート実施(活用実態を把握する)
- ③【全学年】オンライン授業実施

7月

- ①【全学年】「ネット依存等、健康について考える」(アンケート結果も活用)
- ②【全学年】長期休業中の端末使用ルールを自己決定させる。
- ③【全学年】ネット検索した結果等を取りまとめて分析整理する課題を宿題とする。

8月

- ①【全学級】オンライン登校日を設定し実施する。
(指定日指定時刻にオンライン会議に参加:キャリア教育の視点)

9月**(破損の有無の確認・防止指導)**

- ①【全学年】「情報システムの特長(アルゴリズム等)を考える」
- ②【全学年】「メッセージアプリ・文字によるコミュニケーションを考える」

10月

- ①【全学年】「著作権・ネット人権について考える」
- ②【全学年】オンライン授業実施

11月

- ①【全学年】クロームブック活用アンケート実施(活用実態を把握する)

12月

- ①【全学年】「端末活用を行ってきた自分を振り返って」(総合的な整理)

1月**(破損の有無の確認・防止指導)**

- ①【全学年】「情報社会の中で適正に生きることについて考える」
- ②【全学年】オンライン授業実施

2月

- ①【全学年】次年度に向けたデータ整理等について

◆令和5年度は左記の項目の指導内容を確立する。
・禁止項目を伝える指導ではなく、自分たちで考える協働的な学びを意識していく必要がある。
・授業内での取組だけでなく、委員会活動や学プロ活動を有機的に連動させ、学校全体で適切に情報社会と向き合う機運を醸成する必要がある。

◆実施時間は学活、総合、技術の時間等、多様に考えられるため、総合的にこういった形が望ましいか検討しながら進めていく必要がある。

◆このほか、プレゼン力指導等、アウトプット力の育成のための指導も必要であるため、多角的かつ柔軟な取組を進め、本校の情報モラル教育&メディアリテラシー教育の在り方を確立することが重要である。

◆小学校段階での取組を意識して一貫した指導となるよう工夫する必要がある。

ねっトレ時間以外で各教科等の時間で意識すべき観点「マルチモーダルテキスト」を読む読解力育成

Web上のデジタルテキストは進化を続け、文字情報だけでなく絵や写真、イラスト、図などの画像や動画、音楽など**混成型テキスト**(マルチモーダルテキスト)になっている。Society5.0時代の真の読解力とは、こうしたマルチモーダルテキストを読解する力であると考えられる。全国学力状況調査でもそうした傾向のある問題が出題されている。各教科ではそうした次世代型の教育の在るべき姿を認識し、授業においては、マルチモーダルテキストを活用しながら読解力を高める取組を進める中で、「ねっトレ」が目指す目標実現を意識した指導を行っていく必要がある。